

乳児期からの全身乾燥と長期通院を経て皮膚状態が整った小児アトピーの経過 (12 歳 男児)

症例 ID：001-12-NS2 | 記録日：2016 年 2 月 19 日

1. 診断・治療前経過

生後半年頃から頬の赤み、乾燥、首のただれがあり、複数の医療機関でステロイド外用を受けました。3～7 歳頃は除去食療法も続けましたが、全身の乾燥と掻き傷が続きました。

その後も抗ヒスタミン薬や掻破を防ぐガーゼ処置を行いましたが、毎晩のかゆみが続きました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期から複数のステロイド外用薬を使用し、抗ヒスタミン薬も使用しました。
製品名	不明です。
強度	強い外用薬の使用歴があります。
使用期間	乳児期から学童期まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期	発症	頬の赤み、乾燥、首のただれが出ました。
3～7 歳	除去食治療	除去食と外用治療を続けましたが、全身症状が残りました。
その後約 1 年	他院治療	抗ヒスタミン薬とガーゼ処置を続けました。
松本医院受診後	治療開始	煎じ薬と薬浴を開始しました。
開始後半年頃	治療適応	煎じ薬を進んで飲めるようになり、薬浴も週 1～3 回行うようになりました。
治療 4 年	経過中	全身の乾燥と掻き傷が大きく減り、皮膚が整ってきました。

4. ピーク時期

ピークは、3 歳頃から全身が乾燥し、掻き傷のない部位がほとんどなく、毎晩かゆがった時期です。

5. 困りごと

- ・長年にわたり毎晩かゆみがあり、親子の睡眠が妨げられました。
- ・除去食、ガーゼ処置、薬浴、煎じ薬など多くの対応を続ける必要がありました。
- ・消毒と薬浴時の痛み、煎じ薬の苦味で治療継続が難しい時期がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始から 4 年時点では、全身の乾燥と掻き傷が大きく減り、皮膚状態が整ってきました。通院経過の中で、皮膚状態が安定に向かう変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。